

保育だより

2026年 1月号

社会福祉法人いずみ会

幼保連携型認定こども園

つるた乳幼児園

園長 福澤 紀子

北津軽郡鶴田町大字鶴田字相原68-2

電話 0173 (22) 3 7 6 5

新年あけましておめでとうございます

園長 福澤 紀子

つるた乳幼児園として創設から半世紀が過ぎ、私自身も鶴田町との出会いと園での勤務から50年の月日を歩んでまいりました。前園長の保育に対する深い思いに感動し、園の理念を目に見える形で実践したいという強い願いを胸に、今日まで続けてきました。その理念は「四つのころ」――

- ・あかるいころ（心身共に健康な子ども）
- ・つよいころ（動的、主体的に行動する子ども）
- ・うつくしいころ（愛情豊かな子ども）
- ・ただししいころ（平和を愛し、民主的な子ども）

に表れています。これは子どもだけでなく大人にとっても目標であり、体験を通して育まれるものです。

私は子どもに“教える”よりも、子どもと一緒に挑戦し、体験を分かち合うことを大切にしてきました。過去には、子どもたち10人と二輪車で鶴松園まで往復したこともあります。笛だけの合図で進行や静止を伝え、到着後は職員やおじいちゃん、おばあちゃんに挨拶をしてすぐ帰路につく――そのワクワクとドキドキは今でも鮮明に憶えています。園庭でのどろんこ遊びも忘れられません。頭の上から足の先まで泥だらけになり、シャワーで洗い流すと歓声と笑いが響きました。泥だんご作りは数日かけて挑戦し、隠しては翌日また遊ぶ……散歩の途中で、畑の人々から励ま

しの声をいただいたことも心に残っています。

こうした体験の中で子どもたちは、やり抜く力、意欲、集中力、忍耐力、協調性、思いやり、判断力、工夫する力などを育んできました。怪我也有りましたが、当時の保護者は「子どもだから」と赦し、共に歩んでくださいました。保護者と一体となって行ってきた保育実践です。

しかし今、体験不足の子どもが多いと叫ばれています。それが争いや不登校、生きる力の欠如につながっているとも言われています。乳幼児期の学びは小学校以降の学びとは違い、時間を気にせずにとことんやり抜き、自らの体験を通して獲得していくことが大切です。大人の目から見て素敵な作品であっても、子ども自身が考え挑戦したものでなければ本物ではありません。失敗することが分かっているても、体験させることに意味があります。

今年の干支は丙午、丙午の象徴とする情熱と勢いにあやかり、今年一年が“こどもまんなか”で体験中心の教育・保育を進められる年となりますよう祈念いたします。保護者の皆さまのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

本年もよろしくお願いいたします。



◆ 報 告 ◆

◎クリスマス訪問 かなりや

・鶴のまどい 12月5日(金)

今年はインフルエンザの流行で、鶴のまどいしか訪問することができませんでした。

◎クリスマス子ども会 12月20日(出) ※写真

一部のキャンドルセレモニーでは、黒石教会の伊丹牧師のお話を聞き、二部では子ども達のページェント、職員たちによるサンタ登場と、楽しい時を持ちました。

※クリスマス募金は、次回報告致します。

◆ 年末年始の過ごし方 ◆

青森県内では、インフルエンザの拡大がまだ続いております。併せてコロナ罹患者も同様です。この時期は人との交流も多い事が予想されますので、予防には十分にお気をつけ下さい。年始登園時元気にお会いしましょう。

● 子育て支援センターより ●

◎1月のリフレッシュタイム (毎週水曜日)

7日、14日、21日、28日

◆ 予 告 ◆

◎第5回 保育学校 2月27日(金)

◎成長を喜ぶ会・入園説明会 3月14日(出)

◎修了式(かなりや) 3月20日(金)

◎進級式・入園式(園児のみ) 4月1日(水)

